



上関町田ノ浦沖における海域ボーリング調査について、中国電力への許可の撤回を求める意見書提出に関する陳情

【陳情項目】

上関町田ノ浦沖における海域ボーリング調査について、中国電力への許可の撤回を求める意見書を山口県へ提出してください。

【陳情理由】

山口県は10月31日、中国電力に対して上関町田ノ浦海域内で「断層評価を目的」とするボーリング調査の許可を出しました(期間:2019年11月14日から2020年1月30日迄)。このボーリング調査では海底を掘削するため、泥が水中に流出して海底の砂地の上に堆積します。車両や船や人が入ることで、人為的攪乱が起きることも必至です。

瀬戸内海は日本の大切な資源であり宝(財産)です。特に上関町周辺には、1960年代以降の開発によって全国各地で失われてきた手つかずの自然海岸が約7割も残り、海中には魚が卵を産み付けたり稚魚が生活するために適した海藻が群生する藻場が広がっています。スナメリ、ナメクジウオ、カンムリウミスズメなどの絶滅危惧種を含む252種類もの希少生物が生息する「奇跡の海」です。ボーリング調査によって水中に流出した泥は、海底の砂地に堆積してナメクジウオなどから、岩礁に付着して海藻や貝などから、住処を奪います。瀬戸内海の漁獲量は世界の海の中でも圧倒的に高く(同じ単位面積当たり例えば地中海と比べると20倍)、その豊かな漁業資源への影響も懸念されます。また、気候温暖化に伴う海水温度の上昇、マイクロプラスチック問題など海洋汚染の危機が叫ばれ、世界の国々や日本も省庁をあげて、環境保全に取り組んでいます(SDGs14「海の豊かさを守る」)。

藤沢市は、東京電力福島第一原発事故の後、市民の懸念の声を受け、2011年8月より市内の数か所で海水及び河川水の放射能濃度を測定し公開しています。そのことに明確に示されているように、藤沢市は、環境というものは他県とも深く相互に影響し合あうことを既に学んでおり、安全な環境と市民の安心の維持に現に努めています。まして海に関わることは一つの自治体の問題を超えます。通常はプランクトンや餌や魚そのものを運ぶ恵みの黒潮は、ひとたびどこかで環境が害された場合、その運び屋にもなってしまいます。黒潮というひとつの海流で上関の海と繋がる藤沢市。藤沢市議会から山口県に対して意見書を出してください。



2019年11月26日

住所 藤沢市
氏名 富永江美



藤沢市議会議員 加藤一様